

大間町



マグロ以外の食材も豊富な本州最北端の町

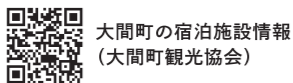
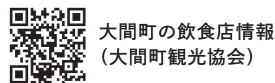
函館とのフェリーの航路があり、北海道からの玄関口にもなっている。本州最北端の大間崎からは、晴れている日には海の向こうの函館の五稜郭タワーまで見ることができる。周辺にはキャンプサイトもあり、多くの旅人が訪れている。

「大間のマグロ」で有名だが、本マグロの他にもアワビやウニなど、季節によって異なる様々な海の幸に加え、黒毛和種の大間牛(通称 陸マグロ)も楽しめる。

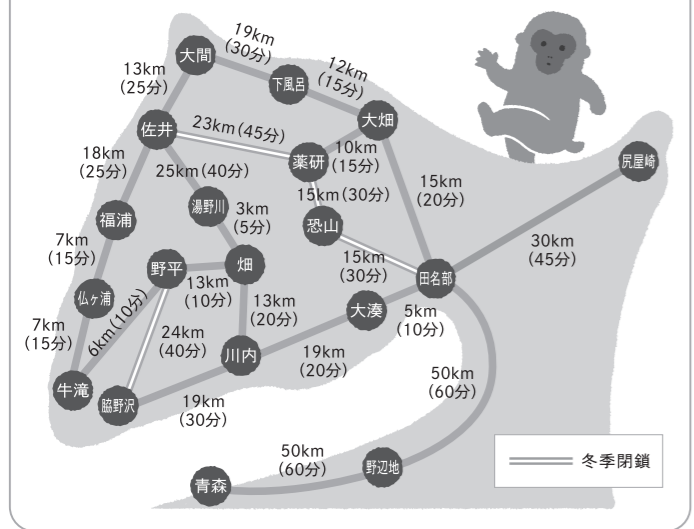


Pick UP!

陸まぐろ(大間牛)
大間のマグロの大トロにも負けない最高等級A5に評価されることもあり、「陸マグロ(おかまぐろ)」とも呼ばれている黒毛和種 大間牛。おおま温泉海峡保養センターで味わうことができる。



各エリアへの距離と所要時間



↓ 下北半島を楽しむ便利な情報はこちらから



親富幸通り周辺



東通村



海と陸両方の食材の宝庫

レンガ灯台として日本一の高さを誇る白亜の灯台と寒立馬が放牧されている尻屋崎、立ち枯れたまま砂地に埋もれたヒバが見られる埋没林など、自然に触れあえる場所が多数存在する。

津軽海峡と太平洋という二つの海に面する東通村では、地まきホタテ、ヒラメ、ミズダコなどの海の食材が豊富。そば、ブルーベリーといった陸でとれる特産物も多く、海・陸両方の食を味わうことができる。

Pick UP!



特別純米酒・吟醸酒 祈水

東通村にある1億5千万年前のジュラ紀の地層を経ての湧水「ジュラ紀湧水」で造られた、口あたりがさっぱりとした日本酒。東通村自慢の逸品で、村内酒店だけの限定販売。

